

平成23年度 経営協議会学外委員からの主な意見と本学の対応状況

経営協議会	学外委員からの意見	本学の対応状況
<p>第1回 (平成23年4月26日開催)</p>	<p>・全学及び各キャンパス共通分について予算を一元化することに伴い、合理化・システム化を図ること及び組織・運営を見直すこと。</p> <p>・大学院博士課程の充足率について、社会のニーズにあっているのかという観点からの博士課程の見直し等が必要である。</p>	<p>・平成22年度から、3キャンパスの科学研究費補助金に関する支払等業務を五福キャンパスに一元化し、業務の集中化・合理化を図った。</p> <p>・大学院博士課程の定員充足率改善のために、平成23年度中に以下の取組みを行った。これらの取組みにより、平成24年4月1日現在で定員充足率が100.7%となり、改善された。</p> <p>1. 魅力的な教育研究プログラムの策定</p> <p>①医学系博士課程(医学薬学教育部、生命融合科学教育部)においては、平成24年度に向け、下記プログラムを整備</p> <p>イ. 卒後臨床研修2年目から大学院入学を認める臨床医養成コース</p> <p>ロ. 学士課程段階から基礎研究を行う研究医養成コース</p> <p>②医学薬学教育部(薬学系)においては、日中韓等の大学間交流を通じた高度専門職業人育成プログラムを実施</p> <p>2. 博士課程入学者に対する経済的支援策として、平成24年度入学者に対し入学料免除枠の拡大を実施</p> <p>3. 平成24年度に向け組織及び入学定員の見直しを実施</p> <p>①理工学教育部では修士課程で専攻の改組(物質生命システム工学専攻を廃止し、生命工学専攻、環境応用化学専攻、材料機能工学専攻の3専攻に)、博士課程で入学定員の見直し(21名から16名へ)</p> <p>②医学薬学教育部(薬学系)では、生命薬科学専攻(博士課程)を廃止し、薬科学専攻(博士後期課程)及び薬学専攻(博士課程)を設置(入学定員18名から12名へ)</p>
<p>第3回 (平成23年9月27日開催)</p>	<p>・認証評価では、ほとんどの大学において大学院博士課程の定員充足ができていない状況だったので、2順目に入って、どう改善努力をしたかが問われる。</p> <p>また、大学として、大学院博士課程の定員充足に向けての営業努力が必要である。</p>	<p>・すべての博士課程の教育部において10月入学による学生の受け入れ体制を整備したり、生命融合科学教育部において全国で初めて博士課程に身体障害者特別入試による学生を受け入れたりするなど、学生定員の充足に努めている。</p> <p>・大学院博士課程定員充足対策の一環として、学生への経済的支援を目的とした入学料免除の拡大を平成24年度から3年間試行的に実施することとした。</p>
<p>第4回 (平成23年11月29日開催)</p>	<p>・運営費交付金が削減される中で新規事業を行うのではなく、既存の計画の中でいかに選択して行うかが重要である。</p>	<p>・学長のリーダーシップのもと「富山大学機能強化プラン-CHALLENGE2014-」を策定し、本学の機能強化の為、平成26年度(2014年度)までに重点的かつ優先的に取り組むべき課題と対応についてとりまとめた。</p>